

生きる力を育む教育で知られる花まる学習会（さいたま市）は12都府県に370教室を展開し、会員は約2万人。思考力を重視し、野外体験も実施するなど、偏差値一辺倒の塾教育とは一線を画す。代表の高浜正伸氏（60）は名門、県立熊本高校に進学。野球部で「いい子」の殻を破って以降、自分がやりたいことを追求し続けてきた。

花まる学習会代表

高浜 正伸氏 ①

熊本高校野球部



りでしたが、熊高で本当「じゃあ教えてやる」にやりたいものが見つかった。身体の鍛え方も教わって球も速くなり、リーの女の子に近づいて（顔はピッチャーに。自身の成長を感じ、やりがいがありました。とかが合図すると女性が出てくるんです。「えー」

熊高野球部の先輩たちのおかげで「素っ裸の自分」になれた。電話番号を聞いて終わりですが、衝撃でした。

1年生の夏合宿の帰り、先輩から突然、「お前ナンパしたことがあるか」と聞かれました。「ないです」と答えると

るだろう」とか、勝手に「阿親からのプレッシャー」はありませんでした。開業医の父は戦争直後から始めて、女の子にモチ

先輩たちは頭がすごくいいのですが、それだけじゃない。熊高には、いい成績だけを狙っても仕方ない、人間力がなければだめだという雰囲気がありました。「ノブレス

・オプリージュ（高貴なるものの義務）」というか、本当に上に立つ人はみんなのことを考える。まさにそれを地で行く感じでした。

中学1年から始めた日記が、自身のよりどころになった。

中学までは地元の田舎の学校で、成績は常にトップ。児童会長、生徒会長をやりました。でも、自分の内側の幸せ感としてはいつも違う。「先生を喜ばせるためにやって

リーダーの母校

とにかく野球、野球、野球——という生活でした。中学時代は勉強ばかり